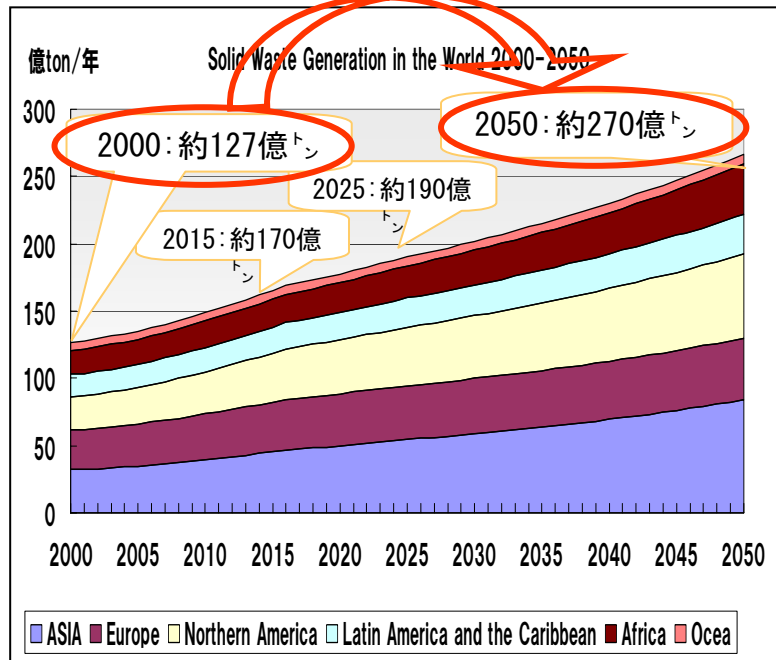


## 世界およびアジアにおける資源・廃棄物の今後

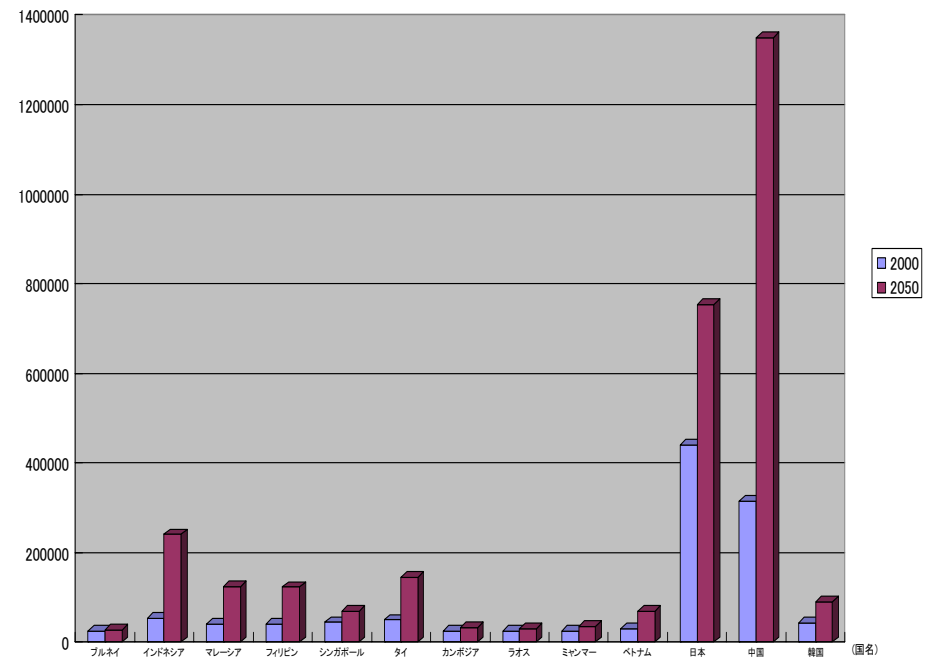
- 世界の廃棄物発生量は、2000年の約127億トンから2050年に約270億トンにまで増加すると予測。
- 特に途上国では、経済成長に伴い、都市ごみの一人当たりの発生量が急増する見込み。

世界の廃棄物発生量の将来予測



ASEAN+3諸国における産業廃棄物発生量の将来予測(2000-2055年)

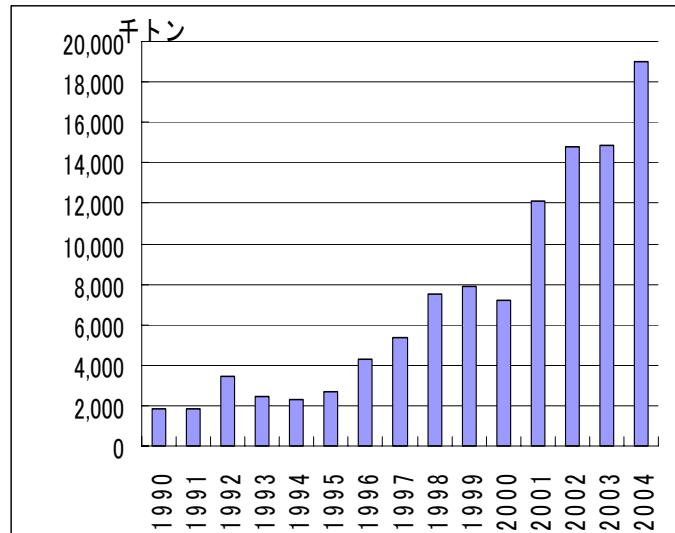
(グラフ)ASEAN+3諸国における産業廃棄物発生量の将来予測(2000-2050)



## 循環資源・廃棄物の輸出入量の推移

- 中国をはじめとしたアジア地域における資源需要の増大を背景に、循環資源の国際移動が増加。特に日本からの循環資源輸出量は、10年間で約9倍に増加。
- 中古製品と称して、バーゼル法の規制対象となる循環資源の偽装貿易が行われたり、途上国において環境上不適切なリサイクルが行われたりしていると指摘されている。

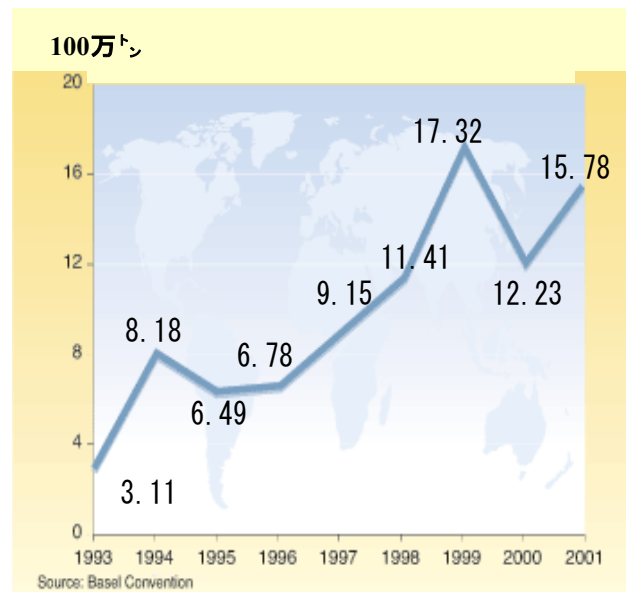
日本からの循環資源の輸出量の推移



※循環資源の内訳はプラスチックのくず、スラグ等

出典：中央環境審議会循環社会計画部会資料より作成

有害廃棄物等の越境移動の推移



出典：バーゼル条約事務局資料

途上国におけるリサイクルの様子



出典：タイ天然資源・環境省

## 生物多様性のホットスポット

生物多様性のホットスポットとは、多様な生物が生息しているにもかかわらず、絶滅に瀕した種も多い、いわば世界的な生物多様性重要地域をさす

日本列島は、元来豊かな生物多様性を有すること、アジア太平洋地域等に生息する多くの渡り鳥の経路上にあることなどから、日本の生態系の破壊・分断・劣化が、世界の生物多様性にも影響を与える可能性がある」と指摘されている。

### 生物多様性の3つの危機

#### 第1の危機

人間活動による生態系の劣化・破壊

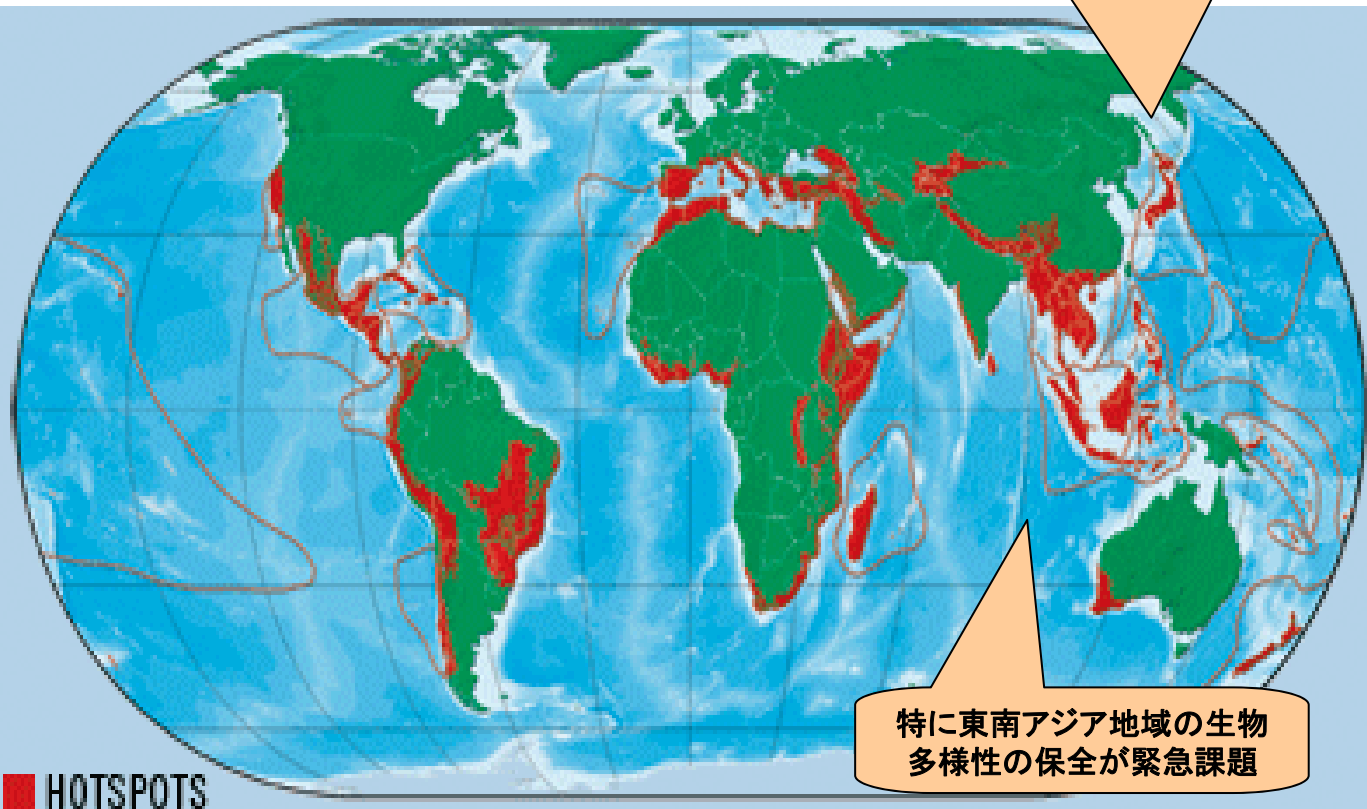
#### 第2の危機

里地里山における人間の働きかけの後退

#### 第3の危機

外来種等による生態系のかく乱

地球温暖化の進行によって生物多様性が劣化する。今後、相乗的に地球生態系の悪化が加速し、人類の生存基盤に重大な影響を与える可能性がある」と指摘されている。



特に東南アジア地域の生物多様性の保全が緊急課題

出所: <http://www.conservation.or.jp/Strategies/Hotspot.htm> (コンサベーションインターナショナル)